

## 予科練平和記念館だより

平成22年2月2日(火)開館



予科練平和記念館だよりは、今回をもちまして連載を休止することになりました。これまでご愛読ありがとうございました。

寒さの中にも緩やかにめぐり来る季節がかいま見える時期になりました。間もなく二十四節気の一つ、「啓蟄(けいちつ)」です。寒さでちぢこまっていた虫が土の中でもぞもぞと動き出す季節、命芽吹く春の始まりは、こうした足元の小さなところから始まっていくのだと思うと、何だか感慨深い気持ちになります。毎日踏みしめる一歩一歩で、虫たちと一緒に春の目覚めに参加しているつもりになる今日のごろ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

## ●予科練平和記念館の一年

2月2日(火)に予科練平和記念館が開館しました。前日の夜は、温暖な阿見町には珍しく夜半過ぎまで雪が降り続き、あたり一面真白になってしまいました。無事に開館できるだろうかと心配していましたが、当日の朝は晴れて雪もとけ出し、おかげさまで600人を越えるたくさんのお客さまにお越しくださいました。寒い中足先を運んでくださった皆さんに、心から御礼申し上げます。さて、開館にさかのぼると約4か月前、予科練平和記

念館の建築工事が終わり、シールバーに輝く市松模様の建物をご覧になって驚かれた人も多かったと思います。このモダンな建物を設計したのは、鋭い建築デザイナーで、緻密な構造計算に基づいたアーティスティックで軽やかなデザインの建物を多く手がけています。ここ予科練平和記念館では、予科練習生たちがあこがれた空を来館者に意識していただけるよう、建物の壁面のおよそ4分の1が窓になっており、映像をご覧いただく展示室以外のほとんどの場所から空を見ることが出来ます。白い壁で四角く区切られた青い空はとてもきれいで、雲が穏やかに流れ、それ自体がひとつのアートのようにです。館内のラウンジでは、予科練や写真家土門拳に関する書籍をご覧いただけるほか、戦争や平和について考えることができる絵本なども置いてあります。大人になってから読む絵本は、なぜか子どものころより心の深いところに染みていくようです。入り口正面のホールやラウンジは無料でお入りいただけますので、散歩やドライブがてら、また公園に遊びにいらしたついででも、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

今年、予科練平和記念館にあって2冊の本が出版されました。子ども向けにわかりやすく予科練を紹介した『予科練ものがたり』と、『続・阿見と予科練』として人々のものがたり『』です。後者は平成14年に発行された『阿見と予科練』そして人々のものがたり『』の続編として編集されたもので、平成14年版には収録できなかったエピソードやその後の調査の結果明らかにした事実など、興味深いお話がたくさん収録されています。また、平成18年から続けてきた予科練経験者や空襲体験者など、29人へのインタビュー記事をまとめて掲載しており、より深く予科練や地域の歴史を知るための貴重な資料となるものです。いずれも記念館の窓口で販売しているほか、館内ラウンジや町内の図書館などでもご覧いただけます。



▲『続・阿見と予科練』と『予科練ものがたり』

た。彼らは、窓口でのチケット販売や展示室でのご案内など、ご来館いただく皆さんに気持ちよくお過ごしいただけるようサポートする職員で、年齢も経歴もさまざまですが、お客さまをお迎えする気持ちと一生懸命さはとても素晴らしいと思います。まだまだ慣れないところがあるかもしれませんが、いつも笑顔で皆さんをお待ちしておりますので、ご来館の折にはどうぞお声をかけてみてください。

啓蟄を過ぎるとはや春分。そろそろ桜の話題も聞こえてきます。予科練平和記念館に植えられた桜はまだ細くて、頼りなく寒風に吹かれていますが、早く大きくなってたくさん花をつけ、新たなお花見スポットとして皆さんに親しんでいただけるよう、記念館ともども見守っていただけたら幸いです。



▲展示解説員